

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 146 号 2018.4.20
□ ■ □ -----

この春、新しい環境で新生活を始めた方も多くいらっしゃると思います。

新しい生活スタイルに適應するまでは、慣れない毎日に心の余裕を無くしてしまいがちかもしれません。

ですが、これまで支えてくれた人、育ててくれた人、期待とともに送り出してくれた人、そんなたくさんの人々が、遠くからエールを送ってくれているはずです。

折しも 4 月 20 日は郵政記念日です。

近況と感謝の気持ちを知らせる手紙をしたためてみてはいかがでしょうか。

中央図書館では、手紙の書き方やマナーに関する本もたくさんあります。ぜひ参考にしてみてください。

■ ■ 図書館からのお知らせ □ -----

◆ 図書館だより 101 号を発行しました。

平成 29 年度図書館利用者アンケートの実施報告と結果を掲載しています。また、調べものに役立つ資料や、調べ方のノウハウを案内するパスファインダーについても書かれています。

図書館のホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/db/1008.html>

■ ■ こどもとしょかんからのお知らせ □ -----

◆ こども読書の日イベント「はるかぜえほんのかい／きよだいこいのぼりをつくろう」を開催します。

こども読書の日（4 月 23 日）にちなみ、こどもとしょかんのくつろぎ広場で、いつものえほんの会を拡大した形の「はるかぜえほんの会」を開催いたします。

暖かい春の日差しの中、ご家族一緒にのんびりと絵本の世界を楽しんで

みませんか。

<日時>平成 30 年 4 月 22 日（日）午後 2 時から 2 時 30 分

<会場>こどもとしょかんくつろぎ広場（じゅうたんコーナー）

<対象>3 才から小学生

<内容>みんなできょだいこいのぼりをつくります。

<持ち物>ありません。（材料などは図書館で用意しています。）

<申込み>事前申し込みは必要ありません。当日 5 分前までにこどもとしょかんへ集合してください。

* 広報活動に利用するための撮影同意をお願いしています。ご理解・ご協力をお願いいたします。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1252.html>

■ ■ テーマ展示 □ -----

◆ 「図書館記念日」（中央図書館／4～5 月）

4 月 30 日は図書館記念日です。

この特集展示では、日本をはじめ、世界の図書館について知ることのできる本や、図書館・司書が出てくる小説など、図書館に関する様々な本を集めてみました。

図書館が、このさきより一層、皆様の好奇心や知識、夢を広げることのできる場所となればと思っています。

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1215-2018.html#m12>

○ 展示の本からいくつかをご紹介します。

◇ 『図書館の神様』瀬尾まいこ／著（マガジンハウス 2003）

主人公の清（きよ）は名前が示すように、常に清く正しい生活を送ることを心がけていました。

そんな清が一番誠実に向き合っていたのがバレーボールでしたが、ある出来事によりバレーボールを続けられなくなってしまいます。

夢を失い挫折した清は、国語講師として赴任した、海に見える田舎の高校で、少しも興味のない文芸部の顧問となります。

そこで出会ったのが、たった一人の文芸部員、垣内君です。

文学が好きだから文芸部に入ったという、清には全く信じられない考えを持つ垣内君との交流が、彼女の傷ついた心に少しずつ変化を与えていきます。

◇『図書分類からながめる本の世界』近江哲史／著（日本図書館協会 2010）

みなさんは、図書館の本の背ラベルに記された3桁以上の数字に関心を持たれたことはありますか。

これは分類記号といい、図書館の本は「日本十進分類法」に従って、0類～9類に分類されています。この方法は、人間のあらゆる知識を0類～9類までの10個の枠に入れるというもので、1870年代にアメリカのデューイという人物によって考え出されたものです。

本書では、0類～9類の異なる分野の本を全て読破しようという試みのもと、各類にどのような本があるのか具体的に書名をあげながら紹介しています。

本を選ぶときに自分の興味のある分野に偏ってしまうのはよくあることですが、本書を参考に図書館分類から本をながめてみると、新たな発見があるかもしれません。

◇『世界の不思議な図書館』アレックス・ジョンソン／著，北川玲／訳（創元社 2016）

あなたの知っている図書館はどのようなところですか。やはり思い浮かべるのは町の建物の中にある、書架が整然と並ぶ図書館でしょうか。

しかし、世界には個性的な図書館が数多く存在しています。例えば、自宅の前の通りに本を並べて開いた図書館、電話ボックスや冷蔵庫を利用した小さな図書館、空港や地下鉄の構内にある図書館、ツリーハウスに作った樹上図書館もあります。

また、近くに図書館のない地域に住んでいる人のために巡回している図書館といえば自動車図書館がありますが、本書で紹介されているのは、手押し車や自転車、船による移動図書館です。さらには、ゾウやラクダといった動物が移動図書館の役割を担っている地域もあります。

これらの図書館に共通しているのは、そこに本があるということだけです。あなたの知らない図書館を覗いてみてはいかがでしょうか。

■■■ 本の紹介 □-----

4月20日は郵政記念日です。

また、記念日を含む4月20日から26日までの1週間が「切手趣味週間」となっていることから、中央図書館では、郵便や切手・手紙などについて書かれた書籍を集めたミニ展示を行っています。

携帯電話やメールといった便利なツールが普及するにつれ、手紙を書くという機会は少なくなってきたように思います。

ですが、手書きの手紙は、文字に書いた方の個性が出ますし、なにより思いや温かさが直に伝わる気がしますね。

また、美しい切手は、まるで小さな絵画のようです。

簡単に削除できるメールと違って、いつまでも捨てられず、大切に持つてある手紙が、皆様にもあるのではないのでしょうか。

○手紙にまつわる本をいくつかご紹介します。

◇『漱石先生の手紙が教えてくれたこと』小山慶太／著（岩波書店 2017）

文豪・夏目漱石が、妻や門下生、大学関係者そして若い読者などに宛てて書いた手紙を通して、漱石の懐の深さ、あたたかさを窺い知ることができる本です。

背中を押してくれるような言葉がちりばめられており、勇気をもらえる一冊です。

◇『リンドグレーンと少女サラ 秘密の往復書簡』アストリッド・リンドグレーン／著，サラ・シュワルト／著，石井登志子／訳（岩波書店 2015）

『長くつ下のピッピ』の著者であるリンドグレーンと、孤独を抱える問題児サラとの間でやりとりされた往復書簡を一冊にまとめた本です。

不安定な感情をあふれるままにしたためのサラと、思いやりと誠実さのこもった言葉を贈るリンドグレーン。

二人の手紙を通して、思春期の感情と、それを温かく見守る大人との不思議な友情が浮き彫りになっています。

◇『井上ひさしから、娘へ 57 通の往復書簡』井上ひさし／著，井上綾／著（文藝春秋 2017）

市川市にゆかりのある作家・井上ひさしと娘「綾くん」との間に交わされた 57 通の往復書簡。すぐれた戯曲や小説を数多く残し、多くの読者を魅了する井上ひさしですが、手紙を通して見え隠れするのは、娘がかわいくてしかたなくて、でも少し不器用な、典型的な父の姿。

あらためて父との絆を考えるきっかけとなる本です。

.....
◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信いただいても内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

市川市中央図書館

〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346
